

# 有機追肥 4 種セット



栽培マニュアル

BLOF 資料説明

## 有機追肥 4 種セットの使用方法

プランターで使用する場合、(下記は 1 m<sup>2</sup>の分量ですから)、3分の1の分量で。  
(1回につき、およそ大匙1杯程度) 苗の根元から少し離して施肥し、軽く混ぜてなじませる。  
クワトロネオは2回に1回程度で。  
追肥は、一番下に実がついたころから始め、10日~2週間に1回程度施肥する。  
野菜の栽培マニュアルはQRコードを参照。

● オーガニック 853 【ナチュラルアミノ 853】 追肥：30g~60g/m<sup>2</sup> (ゴーヤ・トマト 30g/m<sup>2</sup> ナス・きゅうり・ピーマン・パプリカ 60g/m<sup>2</sup>)

非常に効率のよい即効性有機質肥料。(追肥に最適) 有機肥料では他にない、施用後すぐに効く窒素系肥料です。有機栽培肥料の主役で炭水化物とチッソが結びついた、「アミノ酸」を根に直接与えることができます。光合成で作られる炭水化物をスピーディに補い、多収穫実現に大切な生育初期からの生長を促進。追肥にも効果的で糖度や旨味、ビタミンやデンプンを増加させ、高品質な野菜づくりを実現します。春夏の果菜類などでは元肥が切れ始める少し前からおよその目安として2週間程度の間隔であげると良い。その他の季節の野菜では、葉物は元肥のみ、キャベツなどでは結球初期に少量1度施用してあげると良い。

● ハーモニーシェル (石灰) 【ナチュラルカルシウム】 元肥：100g/m<sup>2</sup> 追肥：10g/m<sup>2</sup>

カキ殻を焼成した有機石灰で耐病性、収量を向上させる必須ミネラル。石灰は植物にとって欠かせないミネラル肥料です。植物の骨格「細胞壁」を強くし、病気や害虫に負けない体を作ります。「マグキーゼ」、「クワトロネオ」と合わせて使用すれば、葉緑素の生成が活発になり、農薬なしでも病害虫からの防御力が高まります。春夏の果菜類などは特に中間追肥としてあげると効果的です。トマトやピーマンの尻腐れ防止にも！土壌分析をしながらの施用が理想的で、土質などにもよりますが、元肥量が適切でしたら、目安として2~4週間程度に1度少しずつ施用してあげると良いです。その他の季節の野菜でも重要で、葉物は元肥に、キャベツなどは中間に1度施用してあげると良い。冬季の過剰施用にはならないようご注意くださいませ。

● マグキーゼ (苦土) 【ナチュラルマグネシウム】 元肥：50g/m<sup>2</sup> 追肥：15~20g/m<sup>2</sup>

光合成の要となる「マグネシウム」。野菜の元気がなくなってきた、下葉が黄色くなってきた、などの症状がでたらマグネシウム欠乏のサイン元肥としてしっかり入れれば、作物が元気に栄養たっぷりに育ちます。水溶性のため追肥にも即効性があり、硫黄分も含まれるため、作物の香りとコクを引き出します。特に春夏の果菜類などは中間追肥であげると効果的。土壌分析値からの施用が理想で、土質などにもよりますが、元肥量が適切でしたら、目安として2~4週間程度に1度施用してあげると良い。石灰と同様に葉物類は元肥で施用してあげてくださいませ。  
※オーガニック 853 などのアミノ酸肥料とは間隔をあけて施用してください。

● クワトロネオ 【ナチュラルクワトロネオ】 元肥：10g~20g/m<sup>2</sup> 追肥：5~15g/m<sup>2</sup>

野菜が驚くほど元気に！ 有機栽培に必須のミネラルであるマンガン、鉄、銅、亜鉛、ホウ素の5種を配合したミラクル商品。根貼りや葉緑素の促進、病害虫に強い作物をつくります。野菜を元気に育てる秘訣は、実はミネラルが重要。施肥量は少なくても良いため(使いすぎに注意!)、これ1袋で長く使えます。元肥で入れておくのが理想ですが、水溶性なので、特に入れてない場合は追肥でも少しあげると効果的です。  
※オーガニック 853 などのアミノ酸肥料とは間隔をあけて施用してください。